

# われらトーマン

## スキー雑話

庶務係 齊藤利夫

雪の少ない都会の人々にとって、砂塵の舞い上げるコンクリートのジャングルを抜け出し、一步白銀の世界へ足を踏み入れた時には、一瞬、純白のもつすばらしさ、特に山なみを一面におおった神秘的な姿に魅了されることであろうが、反面豪雪地方の人々にとっては積雪による交通マヒや各種災害等、この上ないめいわく者(物)であろう。そのような暮しの中で発達してきたスキーと言うものは、本来積雪地方における唯一の歩行用具として発達してきたものだそうである。ところが”単なる歩行用具”としてのスキー、ただそれだけでは物足りなく、スキーに対していろいろな技術が考案され、まったく異なった二つの面が表われてきた。その1つは、先頃開会された冬季オリンピックのような100分の何秒かの記録を争う本格的な競技であって、アルペン競技、ジャンプ競技等種々多様である。もう1つは、家族や友人達と単に滑るだけの遊びとしてのスキーである。これについては、記録やルールに縛られることなく楽しく、美しく滑れば良いという事である。これらのスキーヤーを分類してみると、競技としてのスキーヤーの層としてはごく薄く、大部がレジャーとしてのスキーヤーであると思う。私もこのような中であってレジャーとしてのスキーを始めてから5~6年になろうとしているが、自分でも驚くぐらい満足するような滑降をみたことがない。

先日、当課の友人達と、新潟県湯沢スキー場へ行って来たのだが、何と言っても本県は雪こそ少ないが、地理的にはある程度恵まれている方だと思う。ここ湯沢町は東京より3時間も汽車に揺られていれば小説「雪国」を思わせるようなあたり一面の雪野原である。思わず窓際により、曇った窓ガラスに手をあてて車外に目を向けると、青い空と真白い雪とのコントラストがまた格別である。

山が近づくにつれ心がはずみ、色とりどりのザックや手袋に身をかため暖房のきいた列車からホームに下りると

さすがに雪国らしく一段と肌をさすような風である。先頭を追いかけけるようにしてグレンデへと向かうと、すでにあちこちで奇声のかけ合いが始まっている。

二・三歩進んでは転んでしまい、また立ち上がると同時に転んでしまう者、思わず吹き出してしまふような光景がたびたび見られる。それでも必死になってまた滑り出そうとするのは、俗世界を離れたすがすがしい気分の良い空気の中に身を置いた自分に、より一層楽しく美しく滑ろうと思う心が潜んでいるからであろう。先にものべたように私自身スキーをはいてから5~6年といいましたが、始めた動機としては先輩、友人達に連れられて新潟県の苗場スキー場へ行ったのがきっかけである。最初のころは白銀の苗場山の雄大さには魅かれたものの、どうしてこのような寒い地方にまで来てあのような重いイタやクツを身につけなくともと思ったほどである。いやおうなく2日間位は転んでは起き、起き上がっては転びの時間を繰り返しているうちに、体の動きやイタの動きがある程度自由に雪になじんできたような気がしてきたのである。そのようになれば寒さや痛さなどは寄せつけずに、ただひたすらに滑り通して時の過ぎるのも忘れてしまうほどである。そのような中でスキーヤーのマナーが問題になってくるのであるが、上級者になるほどマナーが悪いと言っても過言ではないと思う。事実そのような人たちが初心者の前を気にもとめないで暴走して行くことがしばしば見かけられるのである。スキー場のような(スキー場に限るわけではないが)公共の施設においては一人一人が気持よく楽しく滑りたいものである。

私自身まだまだ未熟であり、悪い点を少しずつでもなおしながら、毎年真白い雪の上を日焼けした顔でおもいきり滑ることだけが楽しみな今日この頃である。



# 煙 草 と 私

企画調整係 伊 藤 宰

私が吸っている煙草には3種類ある。1つは事務所用、2つめは通勤用、3つめは家庭用である。

事務所用にもっか愛用しているのは、カン入りピースである。”50本入り1カン375円”なりで、約2週間もつのであるから、1日に吸う量は微々たるものである。日曜日には別の煙草を吸うから、12日間で50本、375円の消費ということで、1日4.2本、31.3円を吸うことになる。以前はショート・ホープを吸っていたのだが、いちいち買うのが面倒なので、50本入りのカン入りピースにした次第。

ただピースは両切りなので、そのままではやたらと口の中に煙草の葉が残ってしまう。仕方がないので、アクア・フィルターを使ってなんとかそれを防いでいる。

通勤用にはショート・ホープを吸っている。通勤の時ポケットに入れておくには、箱が丈夫な方がよい。箱がつぶれてしまうと、中味の煙草が曲ったり平たくつぶつぶれてしまう。ドイツの煙草にはゲルベール・ゾルテというのがある、始めからだ円形につぶれているが、大底そんな上品なつぶれ方はしない。ヨレヨレにつぶれた煙草を伸しながら吸うのは、あまりさえたものではない、これの消費量も少なく、10本入り1箱が1週間もつ。

10本入りであるというのも、煙草の吸いすぎ防止には役立っている。1度に1箱しか持ち歩かないし、途中ではなるべく買わないことにしているからである。

家庭用にはパイプ煙草を愛用している。パイプを使い始めてから、かれこれ4年になるが、金銭面での制約から安いパイプと煙草しか手に入れることができない。

今までに使ったパイプは5本あるが、現在手本あって使用に耐えるのは2本にすぎない。最初の1本は吸口

とのつなぎ目を割ってしまった。2本めはポケットに入れておいて紛失してしまった。3本めは、酔っぱらって吸口を噛みしめた途端に割ってしまった。1年近く使ったようやく艶が出た所だったので、ショックは大きかった。それ以来、酒を飲む時にはパイプは使わないことにしている。

4本めは県庁に就職して最初に購入したイタリア製のパイプである。外国製とはいっても安いものでしかないが、自分なりに手入れしながら使っていれば、おのずと愛着もわこうというもの。

5本めは昨年の暮に買ったもので、これはチェコスロバキア製の超安物である。

パイプ煙草は安物を中心に、できるだけ多くの品種を吸ってみた。国産品では、知る人ぞ知る桃山、これはからすぎて合わなかった。その他ロッキン・チェアなどもあるが、香りが単調であった。外国産では、ハーフ・アランド・ハーフ、ポンド・ストリート、エジュワース、プリンス・アルバート、サー・ウォルター・ラーレ、アンホーラ、キャプスタン・ネイビー・カットなど、250円台（現在では500円近い値だが）を中心に吸ってみたが、まだこれといって自分の気に入るものがない。今後は煙草の値も上がったことだし、今までの様にあれこれと買い集めることもままならないだろうが、なんとかして値の高い煙草にもアタックしてみようと思う。

煙草の消費量の面からみれば、愛煙家とはいええないだろうが、煙草の種類面では愛煙家になるのかもしれない。